



令和4年度から

高知県型小学校教科担任制について 資料4

小学校で教科担任制が始まります！

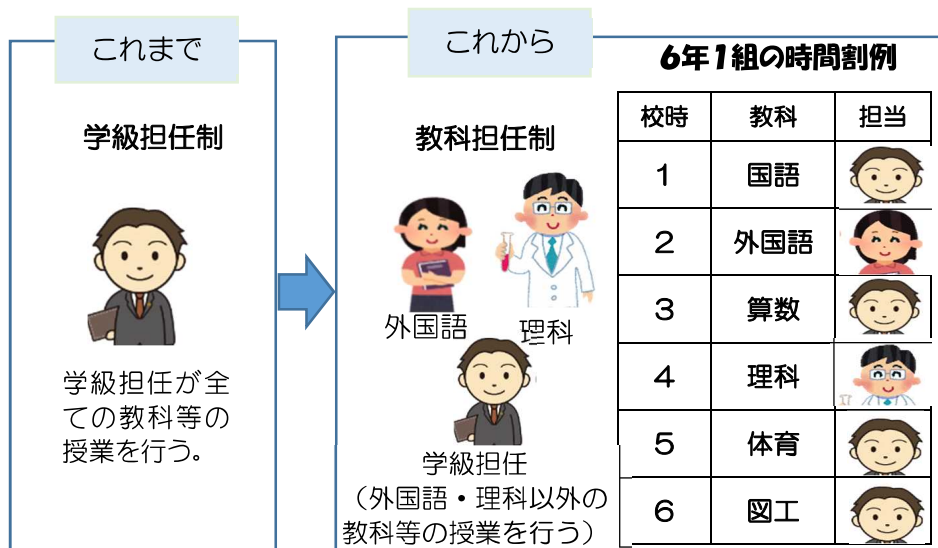
小学校では、英語の教科化やプログラミング教育の必修化により、これまで以上に、教科指導の専門性が教員に求められるようになりました。

また、児童が中学校に入学してから、教科ごとに先生が異なる仕組み（教科担任制）や学習内容の高度化等に戸惑い、新しい生活になじむことができない中1ギャップと言われる問題も喫緊の課題となっています。

そのため、国は令和4年度から小学校の高学年に、中学校のような教科担任制を導入する方針を出しました。高知県でも学校規模に応じた方法で順次導入することとし、令和6年度には全公立小学校において「小学校教科担任制」が実施されることを目指します。

教科担任制とは

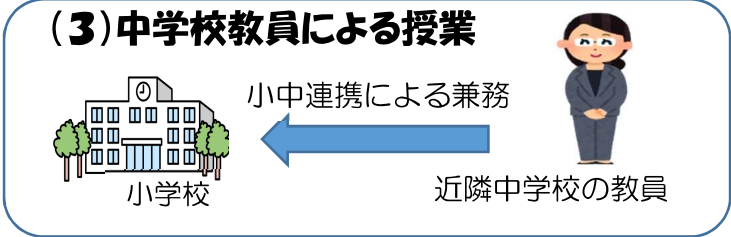
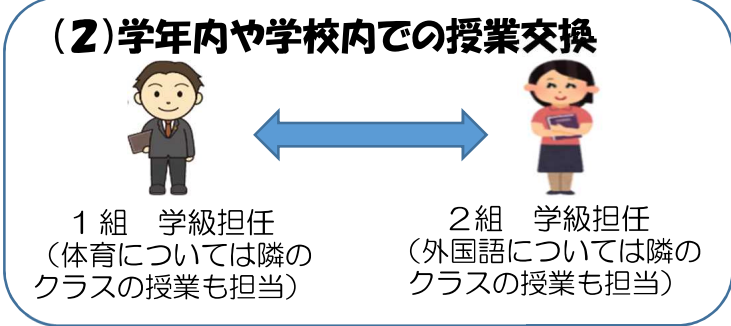
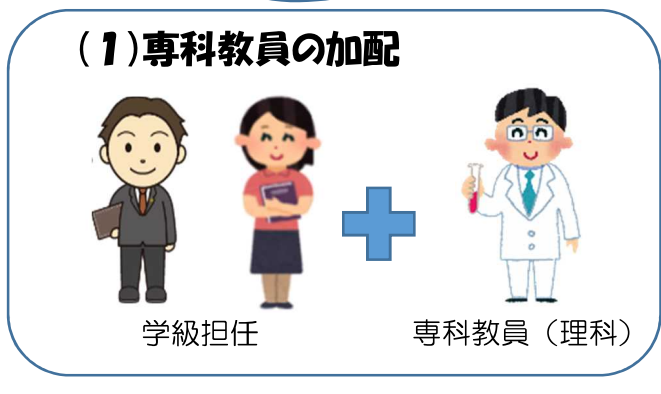
特定の教科の授業を学級担任以外の先生が教えたり、学級担任同士が授業を交換したりするなど、複数の教員で学習や生活指導を協力して行い、子どもたちの成長を支えていく仕組みです。主に小学校5・6年生を中心に実施します。



☆学校の規模や実情によって、教科担任制を行う教科や教科数に違いがあります。

☆各学校は、子どもたちの実態に合わせた一番良い方法を検討したうえで、実施します。

学校規模によって違う教科担任制の主な例



Q & A



Q1 どの教科が教科担任制になるのですか？

A 1 国は、優先的に対象とする教科（優先教科）として、「外国語、理科、算数及び体育」を挙げています。高知県でも国の優先教科を基本としながら、学校の実情に応じて、学校長が決定した教科において、教科担任制を実施します。



Q2 教科担任制による授業はどうなりますか？

A 2 教員が教える教科が少なくなることで、授業の準備にかかる時間が増え、これまで以上に児童生徒の興味関心に基づく分かる楽しい授業ができるようになります。

Q3 いろいろな先生が子どもたちの授業を担当することで、どのようなメリットがありますか？

A 3 個々の児童に対して、多くの教員が共通理解をもって指導・支援にあたることのできるため、一人一人のよさを伸ばすことができます。

Q4 学級担任の先生と一緒に過ごす時間が短くなると、子どもたちは相談しにくくなるのではないですか？

A 4 毎日の関わりの中で、たくさんの先生と信頼関係が築けるため、相談できる先生が増えることにつながると考えます。

Q5 相談したいことがある時は、どの先生に連絡したらよいのですか？

A 5 これまで通り学級担任に相談してください。授業中の子どもたちの様子は、常に学級担任と教科担任が共有していきますので、気軽にご相談ください。

Q6 宿題は誰が出しますか？

A 6 宿題は、学級担任と教科担任が相談のうえ出します。その際に、子どもたちの実態や負担感を考慮し、内容や量を検討します。



Q7 通知票の評価は誰がつけますか？

A 7 各教科は、その教科を担当している教員が評価をすることとなります。